

醍醐天皇宸影

此宸影、モトハ延暦寺ノ所藏ナリシガ、今ハ醍醐三寶院ニアリ、蓋シ醍醐寺
天皇ノ勅願寺ナルノ故ヲ以テ、コ、ニ移藏セラレシナラン、其ノ筆者
未詳ナラズト雖モ、天皇ノ宸影トシテ世ニ傳フルモノ、之ヲ以テ最モ古
ク據ルベシトナス、

後桃園天皇宸影

後桃園天皇ハ、第百十七代ノ聖主ニマシマス、在位十年、安永八年崩御アラ
セラル、寶算二十二、

此ノ宸影ノ原本ハ、京都泉涌寺ノ所藏ニ係ル、

榮西畫像

榮西ハ葉上房ト稱ス、備中吉備津ノ人ニシテ、俗姓ハ賀陽氏ナリ、初メ天台宗ノ僧トナリ、顯密二教ヲ學ビ、後宋ニ游ビテ禪宗ヲ傳來ス、臨濟宗建仁寺派ノ開祖タリ、建保三年寂ス、年七十五、

原本ニハ、絶海中津ノ筆ニカ、レル子元祖元ノ讚アリ、曰ク法中之英、僧中之傑、一錫浮滄溟、南詢還北謁、歸來三處開山、法雨雷施電掣、形留千載花上之春、道播兩國水中之月ト、中津ハ榮西ヨリ百數十年後ノ人ナレバ、此ノ像ハ當時ノモノニアラズト雖モ、其ノ頭顱ノ長大ニシテ扁平ナル特徴ヲ示セル等、其ノ依據スルトコロアルヲ知ル、

北條氏綱畫像

北條氏綱ハ早雲ノ子ナリ、早雲歿後、其ノ遺業ヲ繼ギ、兩上杉氏ヲ川越ニ撃チ、里見氏ヲ國府臺ニ破リテ、霸ヲ關東ニ稱セリ、天文十年卒シ、箱根早雲寺ニ葬ル、年五十五、

此ノ畫像ハ、早雲寺ニ傳ヘタルモノニシテ、狀貌ノ魁偉ナルハ、以テ其ノ人ヲ想見スベシ、

伊達政宗畫像

伊達政宗ハ、仙臺ノ藩祖ニシテ、武略ニ長ジ、マタ文事ニモ暗カラズ、ソノ武威夙ニ奥羽ヲ壓シタリシガ、後豐臣徳川二氏ニ歴事シテ優遇セラレ、累進シテ從三位權中納言ニ至リ、寛永十三年薨ズ、年七十、

此ノ畫像ハ、モト伊達家ノ建立ト傳ヘラル、京都東福寺塔頭松月庵ノ所藏ナリシガ、維新後、隣寺靈源院ノ有ニ歸セリ、此ノ像ハ、陸前瑞巖寺安置ノ甲冑ヲ着用セル木像ト共ニ、善ク獨眼ノ眞ヲ傳フルモノナリ、

第四高等學校圖書印

淺野長政畫像

淺野長政ハ、夙ニ豐臣秀吉ニ屬シ、深ク其ノ信賴スル所トナル、尤モ吏務ニ
長ジ、五奉行ノ首班タリ、慶長十六年卒ス、年六十五、

貝原益軒畫像

貝原益軒、名ハ篤信、通稱久兵衛、又損軒ト號ス、筑前ノ碩儒ナリ、著書百餘種、多クハ國字ヲ以テシ、世ヲ益スルヲ主トス、正徳四年歿ス、年八十五、明治四十四年正四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、狩野昌運ノ筆ニカリ、五タビ稿ヲ改メテ成レルモノ、實ニ六十五歳ノ壽像タリ、原本ニハ、益軒自ラ賛シテ、樸陋之質、衰朽之軀、引鏡窺影、彷彿畫圖、玩古不倦、至老增娛、千慮有得、斯語庶乎ト題セリ、

賀茂眞淵畫像

賀茂眞淵ハ、遠江ノ人ナリ、國學ヲ以テ著ハレ、深ク萬葉集ヲ究メ、詠歌文章ヨク古調ヲ寫シ、自カラ一家ヲ成セリ、萬葉考以下著書甚ダ多シ、明和六年歿ス、年七十三、明治十六年正四位ヲ贈ラレ、同三十八年更ニ從三位ヲ贈ラル、

原圖ニハ、門人狛諸成ノ題辭アリテ、眞淵ノ養子定雄ノ藏セルモノニ依リテ模寫セル由ヲ記セリ、

平治物語繪卷院御所夜討ノ圖

平治物語繪卷ハ、平治ノ亂ノ顛末ヲ畫キタルモノナリ、此ノ圖ハ、平治元年、藤原信賴、源義朝等ガ、院御所三條殿ヲ夜討セル狀況ニ係ル、

此ノ繪卷現存セルモノ三卷アリ、傳ニ住吉法眼慶恩筆ト云フ、此ノ卷ノ原本ハ、今北米合衆國ボストン美術館ニアリ、

米國使節「ペリー」饗應ノ圖

此ノ圖ハ、横濱村ニ新設セル應接場ニ於テ、幕府ノ吏員ガ米國使節ト面接セシ時、茶菓饗應ノ狀況ヲ畫ケルモノニシテ、蓋シ、安政元年二月十日、初メテ對面セシ時ノモノナラン、爾後談判數次、三月三日ニ至リテ、遂ニ和親條約ヲ締結セリ、

圖中、我が吏員ノ席次ハ、各人ノ羽織ノ紋章ニ據ルニ、幕内ノ最右端ニ米人ト對坐セルハ、儒役林大學頭、次ハ町奉行井戸對馬守覺弘、次ハ浦賀奉行伊澤美作守政義、次ハ目付鵜殿民部少輔長銳、次ハ幕府儒者松崎滿太郎純儉ニシテ、幕内ノ最左端ニ我が吏員ト對坐セルハ、即チ「ペリー」ナラン、